Vol.49

県立中央病院連携室だより
－ともに歩む地域医療－

●発行月　令和３年９月
●発　行　岩手県立中央病院　地域医療福祉連携室　〒020-0066　盛岡市上田1-4-1　TEL 019-653-1151（代）
●ＵＲＬ　https://chuo-hp.jp/

«地域医療連携推進の基本方針»

1. 顔の見える連携
2. 地域連携パスと逆紹介の推進
3. 紹介患者の迅速予約と優先診療
4. PHSによるDr.Direct Call
5. 24時間救急受け入れ体制
6. 地域医療福祉連携室を通じた地域包括型連携の推進
7. 高額医療機器の共同利用推進
8. 地域医療研修センターの利用の推進

脳神経内科の紹介

脳神経内科長　土井尻　遼介

岩手県立中央病院の脳神経内科の紹介をさせていただきます。

現在当科には常勤医師が９名(副院長２名、スタッフ３名、内科専攻医４名、うち神経内科専門医４名)おり、脳神経外科とともに脳神経センターを構成し、365日・24時間体制で救急医療に従事しております。

我々はあらゆる神経疾患の診療に対応していますが、中でも脳梗塞の診療が大半を占めます。毎年500名を超える脳梗塞患者さんが入院しますが、これは盛岡医療圏の半分以上に相当します。脳梗塞の超急性期治療であるt-PA静注療法(詰まった血栓を溶かす)、血栓回収療法(詰まった血栓を除去する)を積極的に施行しており、昨年はt-PA静注療法は70例、血栓回収療法は103例と全国的にも有数の治療実績となっております。特に近年目覚ましい進歩を遂げている脳主幹動脈閉塞のカテーテルによる血栓回収療法は、脳神経外科と協力しながら脳神経血管内治療専門医(当科1名、脳神経外科4名)を中心に施行しており、以前ならば死亡につながるような重症脳梗塞の患者さんを救命できるようになりました。

脳梗塞は脳卒中の中でも一番割合が多く(脳卒中データバンク2021によると脳梗塞が74%、脳出血が19.5%、くも膜下出血が 6.5%)、病型によって再発予防薬が異なります。脳梗塞の病型は、血管が詰まる原因により①アテローム血栓性、②ラクナ、③心原性(心房細動、卵円孔開存による奇異性脳塞栓症も含む)、④その他(大動脈プラークや凝固異常によるものなど)、⑤原因不明、に分類されます。病型をしっかり診断する事は、いわば犯人(脳梗塞の原因)捜しを行う刑事(脳神経内科医)に例えられるかもしません。当科では原因検索の手段として超音波検査を積極的に取り入れており、頚動脈エコー、経頭蓋超音波検査、経食道心エコー検査、下肢静脈エコー検査を自科で行っています。

様々な検査でも塞栓源が不明な脳梗塞は、日本では「潜因性脳梗塞」、海外では「Embolic stroke of undetermined

source（ESUS)」という名称がつけられていますが、この病型は脳梗塞再発率が高く、その原因の約30%が隠れた発作性心房細動だと言われています。当科では隠れた発作性心房細動の検出のために、全国に先駆けて植込み型心電図記録計(Insertable cardiac monitoring: ICM)を取り入れました。皮下へのICM植込みの手術を当科の医師が行い、遠隔で転送されてくる心電図を循環器内科の医師と共同で解析します。2021年７月時点で約150例に施行しており、約30%に発作性心房細動が検出されました。発作性心房細動が見つかった患者さんには脳梗塞再発予防薬の変更を行い、中にはカテーテルアブレーションを循環器内科で施行して頂いた症例もあります。以上のような細やかな脳梗塞診断を心がけて再発予防に取り組んでおりますので、脳梗塞診断でお困りの患者さんがおられましたらいつでもご紹介下さい。

また当科では脳梗塞以外に、脳炎、髄膜炎、てんかんなどの神経救急疾患も積極的に受け入れておりますし、脱髄疾患や神経変性疾患などの神経難病も岩手医科大学脳神経内科･老年科と連携しながら診療にあたっております。

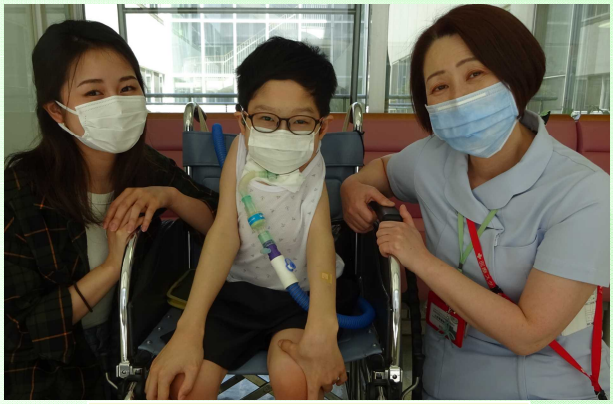
地域の先生方には日頃貴重な症例をご紹介いただき、また当科退院後の転院や外来紹介を快くお引き受けいただき深く感謝申し上げます。当科はこれからも脳卒中を始めとする神経救急疾患の患者さんのご紹介をお待ちしております。

今後ともご指導の程宜しくお願い致します。

医療的ケア児を知っていますか？
～小児看護の紹介～

小児看護専門看護師　寺口恵

入院中の小児科病棟の様子



退院後、1年が経過しました。
最近は手品が得意です。

医療的ケア児とは？

人工呼吸器管理やたんの吸引や経管栄養など、家族が子どもに対し、生きていく上で必要な医療的援助が必要な児童のことです。

2021年6月11日に「医療的ケア児支援法」が成立しました。医療的ケア児とその家族への社会生活の支援として、医療的ケア児が医療的ケア児でない児童等と共に教育を受けられるように、学校看護師の配置などが含まれた内容で、今後期待されるところです。

看護専門外来（小児科・小児外科）

人工呼吸器、経管栄養、胃瘻、酸素吸入、たん吸引などの医療的ケアを必要とした子どもたちが通院しています。家族が医療的援助をしており、学校や療育、保育園に元気に通っています。1型糖尿病の子どもたちは、学校で血糖測定し、インスリンの自己注射をしています。看護専門外来では、診察前に子どもと家族と面談し、治療や自己注射、医療的ケアについての問題の解決方法を提案し、子どもと家族の成長発達の支援をしています。

小児看護専門看護師のお仕事

2012年に小児看護専門看護師の認定をうけ、9年が経過します。多くの事例に対応し、培ってきた経験は、実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究の6つの役割を使い、複雑な困難事例に活かしています。誰もやっていないケアを形にする先駆者が専門看護師の役目だと思います。感染予防・安全性・専門性・簡易的・低コストに留意したケア手順やルールを文書にまとめて、担当する看護師さんがわかるように整備しています。産婦人科病棟に異動し、妊婦さんや褥婦さん、赤ちゃんに関わり、出産前からの切れ目のない母親の支援の必要性を感じています。小児科病棟では、入院中に医療的ケアが必要になった子どもが、在宅での生活ができるように、地域機関と支援の調整をしています。

小児看護では、病気や障害や医療的ケアがあってもなくても、子どもたちがどこにいても、その子らしく、家族とともに笑顔で過ごせる生活をお手伝いしています。ご心配ごとは、いつでも専門看護師にご相談ください。

小児看護専門外来の様子

小児科外来スタッフ

中心静脈栄養管理、
人工肛門管理の
赤ちゃんは在宅移行へ。
現在は自宅で成長中です。

登録医ご紹介コーナー

今回は、『盛岡駅前おおば脳神経内科クリニック』をご紹介します！

盛岡駅前おおば脳神経内科クリニックの大庭でございます。

日頃より岩手県立中央病院様には、脳神経内科、脳神経外科をはじめ様々な科の先生方、スタッフの皆様に助けて頂き感謝申し上げます。

当院は平成28年４月に盛岡駅前に開院し、脳神経内科領域を中心に診療をしております。立地の関係からか、近隣でお気軽に受診される方から、遠方から数時間かけて受診される方など様々な患者様を診察させて頂いております。

～私と中央病院～

私は平成９年に岩手医大を卒業し、その後すぐに岩手医大の神経内科に入局しました。入局時の臨床グループ長が高橋弘明先生（現中央病院副院長）で、神経内科のイロハを教えて頂いた恩師であります。そして平成11年に半年と短い間ではありますが、中央病院の神経内科で勉強させて頂きました。当時の神経内科は３人体制で田村乾一先生（現中部病院副院長）、菊池貴彦先生（現中央病院副院長）と下っ端の私。脳神経外科は４人体制で関博文先生（現つなぎ温泉病院院長）、菅原孝行先生（現中央病院診療支援部長）とその他２人。７階の脳神経センターは７人体制で24時間救急対応をしていました。当時はポケベルの時代で、呼び出しは病棟・救急の内線番号がポケベルに表示され、即座に電話で対応しなければならないシステムでした。20年以上経った今でも中央病院の電話番号を暗記しているのは、あの時期のあの貴重な体験が深く記憶に刻み込まれ、私の医療人生に如何に影響を与えたかを物語っています。その後も大学での研究にご協力頂いたり、開業後は内科OB会に誘って頂いたりお世話なっております。

～「いつもご紹介頂きありがとうございます」～

この言葉は、中央病院に救急患者を紹介した際に電話越しから聞こえてくる、私にとっての「救い」の言葉です。当院からお願いする患者さんは圧倒的に脳卒中が多いです。中央病院の脳神経センターはt-PAによる脳梗塞超急性期血栓溶解療法、血栓回収療法とも東北地方でもトップクラスで、当院としても1分1秒でも早く救急搬送を心がけていますが、当院初診、他院からの紹介を含めて午後に来院され、遅い時間帯にお願いするケースが多々あり、いつも恐縮して電話しています。そんな時に「ご紹介頂きありがとうございます」の言葉に感謝しております。「地域連携」は一方通行であっては成り立ちません。当院としても可能な限り地域に貢献できるように努めて参ります。

住　　所	〒020-0034　盛岡市盛岡駅前通13-8						
電話/FAX	☎ 019-626-4141　/　FAX 019-626-4747						
診療科目	内科・脳神経内科・脳神経外科・整形外科・リハビリテーション科						
診療時間		月	火	水	木	金	土
	9:00～12:30	●	●	●	●	●	●
	14:00～18:00	●	●	●	休	●	休
休　診　日	木曜日午後、土曜日午後、日曜日、祝祭日						

地域医療福祉連携室

退院支援看護師紹介

（※担当病棟が変更になる場合がございます。）

入退院支援部門
看護師長
高橋　美夏

地域の皆様と当院をつなぐ地域医療の窓口として、担当職員一丸となり連携のお手伝いをさせていただきます。どうぞよろしくお願いします。

ご家族・患者様の多様な背景に即しながら「最善は何か」を連携室一丸となって目指しております。いつでもお声掛けください。

4階病棟担当
古舘　洋子

5階病棟担当
佐藤　厚子

４月から地域医療福祉連携室の退院支援を担当させていただいております。患者様や御家族様が安心して転院出来る様に、又地域へお帰りになれる様に調整させていただきます。よろしくお願いいたします。

地域の方々と連携しながら、患者・家族の思いに寄り添った、退院・療養支援ができるよう心がけてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

6階病棟担当
菅原　路子

7階病棟担当
柿木　千春

患者さん、ご家族の希望に添った退院調整ができるよう、努力したいと思います。よろしくお願いいたします。

患者さん・ご家族のお気持ちに寄り添った療養環境調整のご相談や転院先の調整をお手伝いさせていただきます。

8階病棟担当
佐々木　ゆい

9階・ICU・HCU・ER病棟担当
太田　久美子

４月から地域連携コーディネーターとして働かせていただいています。まだまだ勉強中のところではありますが、精一杯頑張りますので、よろしくお願いいたします。

患者さん・ご家族の意向を確認し、円滑な退院支援・調整を行うことができるよう努めて参ります。よろしくお願い致します。

外来患者サポート窓口
佐々木　章江